

議会だより

かつうら

No.

5

1998.11.15

いきいきとした 町づくりを めざして



がんばれ、がんばれ!! (沼江・生比奈保育所運動会)

- 9月議会で決まったこと…………… P 2～3
- 委員会の活動報告…………… P 4～5
- 意見書…………… P 6
- 一般質問11議員が登壇…………… P 7～15
- おじゃまします・議会のうごき…………… P 16

九月議会で決まったこと

- 生名簡易水道工事請負契約
1億2,600万円
- 東部広域農道（地元分担金）
1,587万8千円 など

生名簡易水道のあらまし

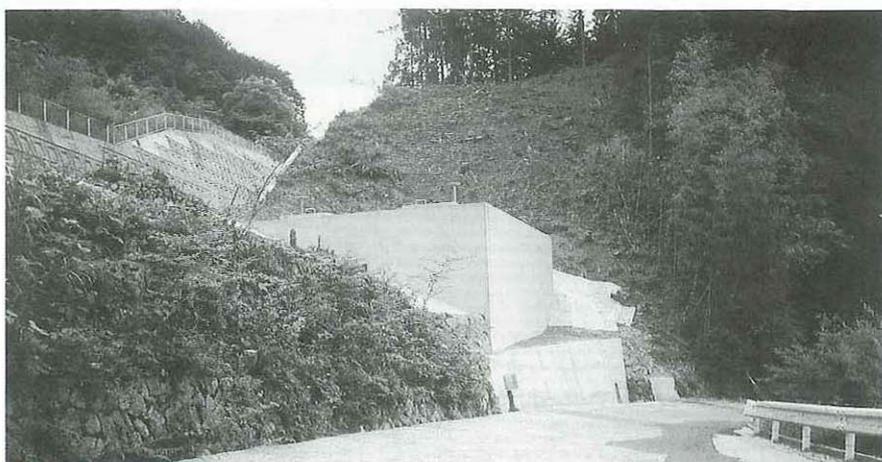
平成9年度から3ヶ年計画で継続事業

平成9年度 { 事業費 4,672万4千円
(内工事費 3,124万7千円)

平成10年度 { 事業費 1億6,544万円
(内工事費 1億2,600万円)

平成11年度 { 事業費 1億3,955万円
(見込み)

事業費合計 3億5,171万4千円
(見込み)



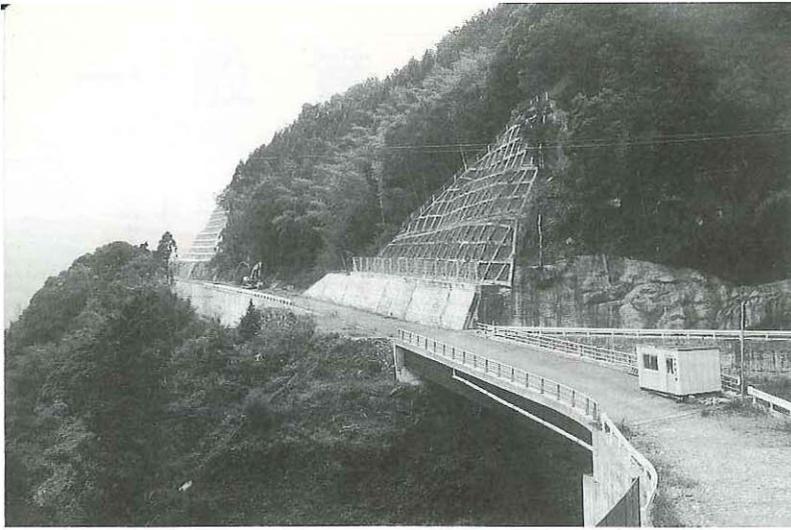
水不足解消にむけて着々と進む生名簡易水道工事

- 九月定例議会は、九月十日から二十二日まで十三日間の日程で開かれまし
た。
- 一般会計補正予算のほか、条例の一部改正や工事請負契約の締結、人事案
件、議員提出議案など十五議案を慎重に審議し、可決しました。
- また、十一人の議員が一般質問を行い、二十二人の傍聴者がありました。

東部広域農道

進ちよく状況は

昭和六十年の着工からの勝浦町関係の事業費合計は五十八億一千二百万円。(平成九年度末まで)
進ちよく率は六十%に到達しました。



東部広域農道事業(中山地区)

事業費の負担内訳

国補助金	50%
県補助金	40%
地元分担金	10%

議案に対する主なやりとり

平成十年度一般会計補正予算の専決処分

救急患者輸送車の業務を九月一日から再開するため、業者との契約に必要な百四十六万五千円の追加を決めたもの。

問 専決処分は、万が一の場合に限定すべきでないか。

答 今後、できるだけそのようにしたい。

住宅新築資金等貸付特別会計の補正予算

二人から八百六十三万九千円の繰上げ償還があり、これを受け入れる内容。

問 住宅新築資金の滞納額の推移とこれからの対応は。

答 推測だが、最終年度の平成二十七年には、四千六百八十万円位になる。機会あるたびに話し合い、努力していきたい。

専決処分とは

議会が決めることについて町村長が議会に代わって意思決定をすること

- ◎地方自治法によるもの
 - ・議会が成立しないとき
 - ・議会を召集するいとまがないとき等
- ◎議会の委任による場合
 - ・軽易なことで議決によって特別に指定したもの

訴えの提起について

玉の木公営住宅への不正入居者に対して、明け渡しを求める訴訟を起すための議案。

問 議案には賛成だが、他にも不正入居者がいるのは困る。契約に基づき、法的措置も必要だ。

答 よく調査をして対応したい。

町道認定

次の二路線が町道として認定されました。

- 中山楮谷線 延長三百五 m
- 生名平野線 延長七十六 m

産業建設

最低制限価格を公表

九月三日、委員会を開き、土木課、耕地課、産業振興課から九月補正予算等について説明があり慎重に審議しました。

土木課関係

業者の格付けについて、土木ではAランク五社、B十一社、C十八社、D十二社、E十社の計五十六業者、建築ではAランク七社、B九社の計十六業者になりました。また、入札制度が十月一日から最低制限価格を公表することになりました。

横瀬橋関連では、旧橋の取りこわしは来年度、県道棚野側の改良については、橋関連と切り離し対応していくなどと説明がありました。

その後、中山楮谷線、生名平野線の町道認定について現地踏査しました。

耕地課関係

県単土地改良、広域農道整備、災害復旧などの補正予算について説明がありました。

問 東部広域農道の上勝との配分率はどうか。

答 事業開始当初は半々であったが、今回は勝浦六対上勝四、今後の割合については県の調整にまかせなければならぬ。

産業振興課関係

補正予算の主なものとして、露地みかんスプリンクラー、アグリベンチャー支援事業など四千八百八十三万円余の説明がありました。

その他の問題

問 畜産団地の豚舎悪臭問題の対応、その後の状況はどうか。
答 近隣地区住民から八月に二回程、お問い合わせがあったと報告が来ている。今後調査を行いたい。点検箇所として攪拌機、抜気槽、コンベア部分である。



水耕栽培のハウスいちご (アグリベンチャー支援事業)

活動報告

察をしました。



生比奈保育所でのわんぱく教室

生比奈保育所で「わんぱく教室」

八月三十一日、委員会を開催。住民課、福祉課、税務課、環境課より九月補正予算などについて説明があり審議しました。

住民課関係

保育所の退所時間延長、産休代替職員、わんぱく教室などの補助金について計上したい旨説明がありました。

問 わんぱく教室の概要は。

答 生比奈保育所で毎週金曜日午前中一〜三歳児を対象に親同伴で行っている。町内各地区から六十一組の申し込みで、参加しているのは四十組位である。

問 駐車場等問題はないのか。
答 問題はないと思う。

介護保険計画を作成

福祉課関係

介護保険計画作成の調査を「とくしま地域政策研究所」に委託する費用等補正計上したいと説明。

問 県内の業者数と委託する理由は。

答 三社である。勝名町村で協議、同じ業者に委託し経費の節減を計ることで見積りを取り安かったので内定した。

住宅明け渡し問題提訴に環境課関係

玉の木住宅建てかえに伴うとりこわしで、一戸だけ問題があり法的に解決したいので、弁護士費用等の補正を願いたいと説明、委員より「法的解決には賛成、応援したい」旨の発言がありました。その他、生名簡易水道改良工事請負契約締結の件を九月議会に追加議案として提出したいと報告。また、住宅マスタープランについて「今年度六百万円の予算で、一地区をモデルとして土地調査をしていきたい。」との概要説明がありました。

厚生

救急患者輸送車 勝浦観光タクシーで

八月二十七日、委員会を開催。理事者より救急患者輸送車について、住民の早期業務再開の強い要望もあり、八月中に委託契約を結び、九月一日から業務の再開をしたいので、九月議会前予算の専決を願う旨説明がありました。

問 業者との委託契約の内諾は。

答 盆あけである。

問 正式の契約は。

答 今日、明日にもしたい。

問 委託料は。

答 月額六十万円である。

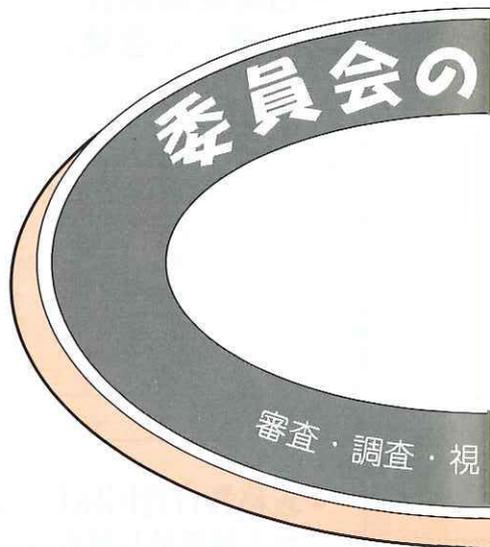
中学校に「心の教室相談員」

週に四回、一回半日の予定で相談員を配置し、中学生の悩みの相談を受ける事業。

国からは四十二万円の委託費があり、町としても補正予算を計上したい旨の説明がありました。

問 顔も気心も知らない相談員に悩みの相談をと思うか。効果が期待できないのでは。

答 羽ノ浦で校長をし、退職された人をお願いしてあるので、実施を試みたい。



有機農法には価格保証

七月二十二～二十四日

宮崎・鹿児島 両県を視察

「地域活性化、住民と一体となったまちづくりを研修」

宮崎県綾町は「自然と調和した豊かで活力に充ちた教育文化都市」を基本に、四点を重点課題とし推進を図っている。

① 照葉樹の自然林が広大な面積で残り、照葉樹林都市「綾」として、日本の自然百選・森林浴百選・水源の森百選に選定され年間百万人が訪れている。

② 自然生態系農業の町として、有機農法で消費者に信頼される農業を確立。有機栽培農家には、価格保証し所得の安定向上をめざしている。

③ 手づくりの里として陶芸など四十の手づくり工房があり、全国の展示即売会に積極的に参加している。

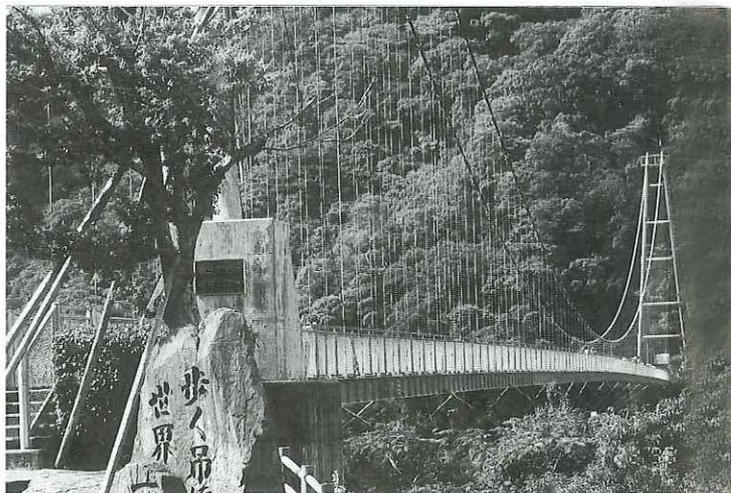
④ 都市と農村の交流共生を目指し、サッカー場や野球場をつくり、Jリーグの合宿にも使用されている。

⑤ 鹿児島県松山町は、「ふれあいと活力に満ちた豊かな松山町」若者達が住みたくなるまちづくりをめざし「やっちく」(野菜と畜産)のまち興しをしている。町の名前を知ってもらうため野菜と畜産、やぶる気、大隅半島、町の歴史などをミックスした「大隅の国やっちくまつやま藩」を開藩し秋の陣祭りなどを開催し、ひとつづくり、まちづくりが成功している。

成功の原因を町長は「職員が黒子に徹し、研修してきたものを活かしている。感謝している」と言う。

綾町の有機農法は行政の強力な支えに感心。有機栽培と簡単に口にするが、大変なことだと再認識し、本町が即取り組むには、問題が多いと感じた。

松山町のまちを一つにまとめ、外に向けての発信だけでなく着実に町内での活動にも取り組みをなげている町づくりはすばらしい。本町でも町の名を高めるためイベントなどに熱心に取り組まれているグループもあるが、住民との一体感、盛り上りに欠けるくらいもあり、学ぶべきところがあるのではないだろうか。



綾町の自然林と歩く吊り橋

国へ意見書を送りました

(議員提出議案)

◆道路整備予算の確保に関する意見書

国に対して、「平成11年度における道路特定財源制度の堅持と一般財源の大幅投入による道路整備費の拡大」等を要請する内容。

全員一致で可決。

◆過疎地域活性化のための法的措置に関する意見書

過疎地域は、人口の減少、若者の流出、高齢化の進行等一層強力な施策が必要であるため、平成11年度における現行法失効後においても「現行法の制度等の条件を継承した法律に基づく総合的な振興策が講ぜられるよう強く要望する」というもの。

全員一致で可決。

◆義務教育費国庫負担制度と学校教科用図書無償給与制度の堅持に関する意見書

これらの制度の廃止について大蔵省で検討されているが、これは「単に地方財政負担の増大をもたらすのみならず、義務教育の円滑な推進に重大な影響をもたらすものである」として、その制度の堅持を要請するもの。

全員一致で可決。

◆軍縮・平和の推進に関する意見書

「北朝鮮のテポドン発射は、国際法違反の無謀な行為である」とともに、周辺事態法案等には重大な懸念があるため、「政府は十分な審議をつくり、撤回も考えるべきである」と指摘。

そして、「世界の軍縮と平和的手段による紛争等の解決という国際ルール確立のための積極的役割」を求めるもの。

全員一致で可決。

◆納税者の権利憲章の制定を求める意見書

税務調査は、納税者の人権尊重の上で行うべきであり、国に対して「納税者の権利を保障する『納税者権利憲章』の制定」を求めるという内容。

★5人の議員から質疑があり、提出者からは「サラリーマンなどの源泉徴収者にも、自主申告が認められるべきである」等の答弁がありました。

森敏治議員退席の後、可決。



教育委員

武田 京氏(中角)
の再任に同意しました。

固定資産評価委員に花房儀
八氏の後任として
杉本吉男氏(生名)
が選任されました。

井出幸夫議員
永年議員表彰

四国町村議長会、
会長表彰を受賞
(在職二十年以上)



井出幸夫議員

去る十月十五日、高知県で開催された四国地区町村議会議長会において、井出幸夫議員が永年議員として表彰されました。井出議員は「議会人として原点に戻り、今後の議会活動により精力的に取り組みたい」と述べられ、益々のご活躍が期待されます。

職員の管理体制について

職員数を減らす努力を

まだ足りないとの声も
(川口町長)

溝田義昭 議員



問 財政硬直化が進む今、民営化や民間委託等に真剣に取り組み、職員数を減らす努力をすべきではないか。

答 川口町長 今はまだ「人員が足りない」という意見が多い。今後の課題として研究したい。

問 能力主義を原則として、係長以上の昇格に試験を行い、勤務評定との組み合わせで昇格させる方法を取り入れてはどうか。

答 川口町長 今そこまで考えが煮詰まってい

ない。

答 国清総務課長 民間企業においては、能力主義徹底の傾向が強まっていることから、今後の検討課題と考えている。

今後の町道管理は

問 現在町道の総延長は、

答 秋本土木課長 十九万五千九百四十mである。補修や改良の住民要望に、どの程度応えられているか。

答 秋本土木課長 要望の三十%くらいしか応えられていないと思う。

問 舗装の寿命がきて痛んでいる道路が多いが、今後どうしていくのか。昔のように出役方式を取り入れてはどうか。

答 秋本土木課長 十四万二千米は耐用年数が過ぎていて。これを再舗装すると二十一億円かかるので、今の予算ではとてもできない。簡単な補修については、役場にレミファルトがあるので、出役でやってくれれば、いつでも提供する。



町内各地区にみられる痛みのひどい町道

集落排水供用率は

問 現在の供用率と今年度末八十%の目標達成は、桂木環境課長 現在の供用率は五十二・六%。年度末目標達成は難しい。

JA合併について

合併後の販売体制に対する

町の取り組みは

今後JAとも十分協議していきたい (川口町長)

国清 栄 議員



問 合併について行政との連携状況は。

答 川口町長 戸川産業振興課長 九月四日、町三役とJA側と話し合いを行った。

問 一市四町、それぞれ農業体型の異なる地域、合併後の影響と営農指導面での対応は。

答 川口町長 販売戦略、資金運用、施設の有効利用等のメリットがある。また、営農指導については弱体化しないように考えたい。



合併の協議が進むJA勝浦郡

問 今後、消費者ニーズの多様化、輸入農産物の状況等、販売面において情報の先取りが最重要と考えるが、行政としての取り組みは。

答 川口町長 その通りだ。今後、この面で合併を見据えてJAとも十分協議をし、行政として即戦力となるような人を選びたい。

保育料の軽減を

問 少子化対策の一環として保育料の軽減を考えるとどうか。

答 川口町長 過去三年間据え置いている。厳しい財政の中であるが、実質的に軽減措置となるようにしたい。

青少年犯罪の防止策は

問 青少年による犯罪が現実的に町内で起こった。今後、このようなことが発生しないための対策は。

答 松浦教育長 青少年補導センター等の協力をいただき、また、地域住民との連携の中で今後の防止策を講じていきたい。

ほ場整備が立ち後れている

地元の意欲と調整が必要（川口町長）

山田昌男 議員



問 勝浦町は、ほ場整備が立ち後れている。推進に当たっての具体的な問題点は。

答 戸川産業振興課長 ほ場整備は生産基盤確立のための基本であり、農業経営上も有利になる。施設園芸のさらなる拡大を図りたい。石尾耕地課長 水田面積約百六十haのうち十

一%が整備されている。国有地編入の処理に時間と労力がかかっている。受益者負担の調整も必要だ。財政の許す中において推進したい。

問 財政の許す範囲というのでは積極的でないと思うが。

答 川口町長 今、大変財政の厳しい時代だが、中角地区ほ場整備など農業の町として確立していきたい。地元の意欲と調整が必要だ。

問 1a当たりの負担金は、

答 戸川産業振興課長 石原地区の場合、1a当



早くこんな姿に！（沼江・石原地区）

たり二百五十万から三百万円の事業費で、地元負担は十五%である。

献血運動の推進を

問 本町での献血実績は。

答 光井福祉課長 献血推進グループは、社会福祉協議会、日赤奉仕団、阿波勝浦ライオンズクラブ、JA等である。

平成九年度は、目標二百九人にに対して百七十二人から協力いただき、達成率は八十二・三%である。

問 特に、四百ml献血を推進しているが、勝浦町における献血登録者数は。

答 光井福祉課長 献血グループの会員数は千人程度で、献血登録者数は九十一人である。

すだちのしぼりかす問題に

どう対応するのか

神原 忍 議員



問 すだち原料の単価が、今年は格別安い。

安値になった主な原因として、しぼりかすの処分に費用がかかるからと言う。

産業廃棄物は適切に処理されるべきだし、生活環境も守らなければならぬ。

しかし、特産品として増産を呼びかけ、推進して来たのだから、今、何か支援策を立てるべきではないか。

堆肥場建設に補助金を出した町村もあると聞くが。

答 戸川産業振興課長 今年、しぼりかすに苦土石灰をまぜて、農地にまいてもらっている。

量がどの程度になるかの問題もあるので、今後、農協、搾汁工場と協議していく。

答 川口町長 できるだけ市販品の生産に重点を置いてほしい。

原料は他町村からも入荷しているの、県段階での話し合いをしなければならぬ。

猿害などの対策は

あるのか

問 今年には猿の数が多いと聞く。

一昨年のような農作物への鳥獣被害が出ると、農業経営も大変なことになる。

先進県での研究報告では、銃火器使用が効果的と聞くが勝浦町ではどんな対策か。

答 戸川産業振興課長 猟期以外での許可をもらったりして、ご協力いただいているが今後、猟友会と猿害について協議する。



モノレールの上で、群れ(約30匹)の見張り役をするボア猿(与川内 押葉永子氏写真)

答 川口町長 被害が出ないよう予算的に配慮してゆく。

町長の政治姿勢

議会軽視でないか

中西晴美 議員



感謝している。また、招待者問題については、会場の都合もあり二百人以上は入れなかった。で了解してほしい。

答 川口町長 委員会と議会軽視の問題を問われているが、議会や所管の委員会に報告、協議等が遅れたこととはご容赦願いたい。

横瀬橋開通式問題

問 念願の横瀬橋が完成し、促進に向かって運動を展開してきたが、開通式等について所管の委員会に協議がなかったのはなぜか。また、落成式の招待者等について落ち度があったのではないか。

答 秋本土木課長 横瀬橋開通式までに地元で取り合い道路整備や信号機設置等、急を要する要望事項解決に直前までかかり、所管の委員会に諮れないまま六月議会になり、一般質問で答弁した。大変多くの方のお世話になり、

棚野側の整備は格下げではないのか

問 横瀬橋架橋に関連して、棚野側の道路整備については、一般県道で取り組むというが、結局格下げになったのではないか。委員会に相談すべきであったと思うが、どのような方策で実行しようとするのか。

答 秋本土木課長 平成九年十二月十八日の棚野側関係者の協議結果を、平成十年三月五日、産業建設委員会で報告させていただいたとおりである。

答 川口町長 棚野側道路整備の問題は、最終的に棚野側関係者、県職員、町側出席のもと相談の結果、横瀬橋開通までには意見調整不可能という決定を了承していただいた経過がある。

上の委託契約にしたのか。議会軽視も甚だしい。

答 国清総務課長 事故発生以来、所管の委員会で五回、全員協議会で三回協議してきた経過もあり、総務委員会にお願いした。

答 川口町長 日の峰タクシーに委託していたが、距離的な問題もあり、町民からは一刻も早い救急体制の確立を望む声もあつて、実施に踏み切ったので、ご理解願いたい。

問 町長は、専決処分の基本をどのように認識しているのか。重要なことは原則として専決すべきでない。見解を。

答 川口町長 住民の強い要望があり、会議を開くいとまがなかったので専決をさせていただいた。

誘致企業撤退後の

町内経済、所得状況は

問 船井電気をはじめ町内企業の撤退により、町民所得の減収による商店街等への影響は。私の試算では年間六千万円位の減収と思われるが。

答 戸川産業振興課長 船井、キタジマ、フジテック三社で、三十人程度の方が退職した。所得格差はあるが年間六千万円以上の減収と思われる。

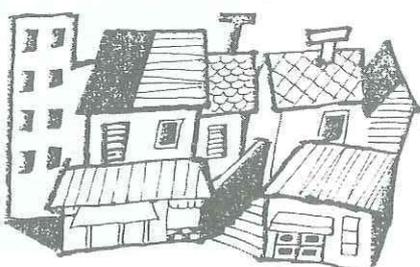
問 船井電気の跡地問題と、これからの誘致企業等に対する対応を問う。

答 川口町長 跡地問題について船井本社と協議中だが結論には至っていない。誘致企業については、県の企業振興課を通じて話し中だが、なかなか難しい。



経費倍増するのに なぜ専決処分したのか

問 八月二十七日、救急患者輸送車に対する専決処分がなされた。九月定例議会を直前に控えて、なぜ繰り上げて、しかも、従来の三百万円程度の予算を七百万円以



坂本小学校跡地利用

年次計画の策定を急げ

森 敏治 議員



て、希望等調査をすべきである。

答 入田教育委員会事務局 長 早い時期に、全保

護者を対象に説明会等を開き、アンケート調査を実施し、回収率も高めるよう努めたい。

問 坂本小学校統合後の跡地問題については、行政が責任をもって解決すべきであり、平成十年度中に年次計画を策定し、坂本区民に明示すべきである。

答 川口町長 活性化委員会とも協議しながら、早く結論を出したい。

入園希望者の実態調査を

問 両校区で、幼稚園を設置する方向で検討されているが、事務調査と並行し

答 川口町長 答申を受け、議会にも諮り改革を行った。批判があるところは修



なごりを惜しむ阿波おどり

機構改革について

問 二つの課を新設した機構改革は「時代に逆行しないか」との町民からの批判があるが。

答 川口町長 答申を受け、議会にも諮り改革を行った。批判があるところは修

正も。日時も経っていないので、長い目で見てもらいたい。また、介護保険等行政事務は増大している。住民福祉の向上のための事務体制とした。

意見具申を

どう受け止めるか

問 今後における行政改革調査会等の意見具申は、最大限尊重すべきである。

答 川口町長 尊重することとは当然である。

人事異動の時期について

問 職員の志気を高め、住民サービスを下さないためにも、一定の時期に統一すべきでないか。

答 川口町長 大幅な異動でもあり、事務事業の完了等も考慮した。人事異動の基本的時期は四月とする。また、時代の流れに即応できると、時代の流れに即応できないような、時期を逸しない人事異動としたい。

少なくとも年一回の行政報告会を

問 川口町政は二期目を迎えたが、行政報告の取り組み状況を問う。また、広報活動に加え地区を巡回し、情報の提供はもちろん住民の声や意見を聞くことも重要である。

答 国清総務課長 平成六年から七年にかけて、住民対話集会を一回実施した経過がある。

答 川口町長 住民対話集会には必要である。当面は、各種団体や諸会議の場で協力を求めていきたい。介護保険、財政状況等の問題もあり、今後検討したい。

食べ物や飲み物は安全か

問 県外客も増え、毒物等混入事件後、社会不安も高まっている。行政の対応を問う。

答 国清総務課長 広報活動や地域の安全を守る会等の組織を通じ、事故防止活動に取り組むたい。



細心の注意を払い調理にあたる職員

答 河野参事兼病院事務局 長 劇薬は金庫に保管、水道水や入院患者の給食についても問題はないと認識している。今後も事故防止の徹底に努めたい。

答 西野給食センター所長 調理、配食等一連の作業は万全である。また、味、香り、異物の混入等のチェックは常に行っている。特に給食は、子ども達に食べさせる前に職員が検食しているので、万全である。

答 岡本住民課長 給食のほかに保育所内で食べる物は、専任の調理員が調理している。今後問題はない。今後においても事故防止について指導したい。

答 桂木環境課長 簡易水道の残留塩素は、法改正により毎日点検している。配水池の管理は、町、組合長、管理委託人が鍵を持ち管理している。

沼江バイパス・ルートを示せ

沼江保育所より蛇行せず町境まで直線で

(秋本土木課長)

福徳重二 議員



問 県道沼江バイパスの二期工の着工が待たれている。コンサルタントを投入して地質調査をしていたが、その後の調査結果はどうなっているか。

答 秋本土木課長 地質調査はトンネルの道路にするか、オープン道路にするかのためのものである。地質調査の結果トンネル道路でなくオープンな道路にすることを決定。

問 県は「地元関係者の意向に添った形での方線決定をする。地質調査後の結果次第では方線変更もありう

る」とのことであった。調査結果が出ている現在、地元関係者の意向に添った方線、いわゆる沼江保育所より阿南方面に向かって蛇行せず、まっすぐな方線をとるのか、それとも方線決定にいたらず別の方線をさがしているのか。

答 秋本土木課長 地元関係者の意向通り沼江保育所より蛇行せず、まっすぐに勝浦町沼江・小松島市櫛瀨の町境まで延長する。

問 用地買収、設計作業等あると思うが、着工および供用開始はいつごろと想定されるか。



着工が待たれる沼江バイパス

答 秋本土木課長 着工は平成十一年度を希望する。供用開始は未定である。

環境保護条例の制定をしては

問 最近、本町内においても、ごみ投棄・投棄による流水汚濁・産業廃棄物の野焼きによるダイオキシン問題・空き缶のポイ捨て・土砂のほうり積みによる草木の生えしげり等環境の悪化はひどいものがある。これらは個人の良識に負うところが多く、法的規制が適用されるのはむずかしいと思う。本町がとっている環境行政はこのままで良いと思うか。

答 川口町長 万全ではないと思う。まあまあだ。



農地への土砂のほうり積みと雑草

問 現在の法規制のもとでは孫子の代までよい環境を守っていけないと思う。例えば、ごみ捨て条例・流水汚濁条例・空き缶のポイ捨て条例・草刈り条例等を含めた環境保護条例を制定して「住んでよく訪れてよい町あわかつうら」をつくることを提言する。

答 川口町長 本町において環境保護条例が必要であるかどうかよく調査研究してみたい。

問 県およびかなりの市町村では透明性、公平性が高まるというメリットから公共工事の最低制限価格の導入公表を導入している。本町においてこれを導入することによってどれだけのメリットがあるか、またデメリットは。

答 秋本土木課長 デメリットはない。メリットとして、一括下請けの排除・談合の抑制とコストダウン・透明性・公平性・確保が図られる。

公共工事の最低制限価格公表

平成十年十月一日から導入する (秋本土木課長)

問 本町において導入の考えは。

答 秋本土木課長 平成十年十月一日から実施する。

川島町議員除名等の 事件に対する所見は

圧力や暴力に屈しない行政を行う (川口町長)

井出幸夫 議員



問 ①一般質問での部落解放同盟批判を「差別発言」だとした川島町議会の議員除名事件、②解同幹部宅への抗議葉書を差別文書だとして教職員等四十人余りが筆跡を調べられた鴨島第一中学校筆跡鑑定事件、③森本工務店等の建設業法違反事件、④徳島市互助会事件など解放同盟に絡む一連の事件に対する所見を問う。

答 川口町長 圧力や暴力に屈しない、き然とした行政を行わなければならない。

答 早川助役 行政の主体性が重要である。

答 松浦教育長 行政の主体性を確保しなければならぬ。

答 国清総務課長 一部の人のために業務が振り回されたり、特権や利権があつてはならない。自由にもが言えない社会では、人権尊重や民主主義は育たないと思う。

答 駒津同和对策課長 同

答 和の法律は、一部の者に利権や特権を与えるためのものではない。一部の行為によつて、組織全体が批判を受けることになる。団体においても正常化してもらう必要がある。

答 秋本土木課長 十月から実施する最低制限価格の入札公表により、入札制度は、よりクリーンなものになる。

答 石尾耕地課長 自分のものとしてとらえ、行

政の主体性をもつて進めていきたい。

町独自の業者審査を

問 ペーパー会社が県の経営審査をパスしている。うわさのある業者の審査を町独自で行う考えはないか。

答 川口町長 疑問な業者のうわさがあれば調査したい。

同和団体助成金の 廃止を

町村会にそつた行動をとる (川口町長)

問 一部幹部の横暴や不正を黙認してきた解同県連に、弁解の余地はない。それどころか、解同の存在そのものが、差別意識の解消に大きな障害となっているのではないか。同和団体助成金の削減・廃止をすべきだ。

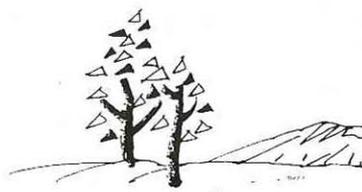
答 川口町長 町村会の同和对策特別委員会、助成金について一回審議した。その中で「審議打ち切り、却下だ」という意見と「継続」という意見が出て現在継続審

議となっている。

問 町村会が削減という方針を出さない場合はどうするのか。来年度、勝浦町は助成金の計上はしないと云えるか。

答 川口町長 町村会にそつた行動をとらなければならぬと考えている。

財政再建団体 への危険性は 保証はできない (滝花企画財政課長)



問 もし、過疎指定をはずされた場合、財政再建団体に陥る危険性はないのか。

答 滝花企画財政課長 改革が進まず今のようない状況が続くなら、保証はできない。財政健全化のため、事業のストップや延期ということもありうる。

生名地区悪臭対策は 今年中には結論を (川口町長)

問 「粘り強く移転の方向で進めていきたい」と、同じような町長答弁が続いている。

答 川口町長 今年中には結論を出したい。

問 町長として、自分のつまづきは率直に認めよ。そして結果責任は自らが負うという覚悟で取り組むべきだ。

答 川口町長 職員の責任を最高責任者の私がかかるのは当然のこと。自分の発言等についても十分注意したい。

問 町財政の見通しは。

答 滝花企画財政課長 十一年度には、思い切つた財政健全化計画を、県に提出しなければならなくなる。

たびたびおこる浸水被害 町営石原住宅なんとかしてよ

森 健 議員



「はおこらない」と予測していたと思われる。発生の原因としては、パイロット事業により畑地化し保水力がなくなったこと、道路面の舗装、水路のコンクリート三面張り等による水量、流速の急激な増加が主な原因と思う。

被害状況は六戸のうち水路側三戸が床下寸前の浸水被害を受けている。

問 水路の極端な折れ曲がりも原因と思われる。どのように対応できるか。

答 桂木環境課長 水路は県河川なので県協力により防水壁を作ったが、その後豪雨がないので今後の状況を見る。

答 秋本土木課長 今後の対応としては、一級町道家台―中山線が緊急地方道

五カ年計画であるので拡幅改良による側溝整備による分水での対応が考えられる。財政課と相談のうえ計画を立てたい。

明石海峡大橋開通後の 勝浦観光事情について

問 「架橋新時代」は最近特に耳にする。また、町長所信表明にも重く用いられていた。

こうした時代背景のもとに行う町おこし事業、町が後援する催し物の目的、考え方等基礎基本は何か。

答 川口町長 勝浦町にはいろんな観光資源がある。これらを活かして交流人口を増やし町を知ってもらい、町の活性化につなぎたい。農業の町として、町民全員参加の町おこし事業、観光による町産物販売につなぎたい。

問 盆、夏休み期間における本町の架橋効果はどうであったか。今後の取り組みは。

答 戸川産業振興課長 勝浦町には、九年度で十三〜十四万人の人が訪れている。架橋後の県外からは、

ひな祭り一万人、遊漁者二百人、あゆ祭り二百人、フライトパーク全国大会の飛行者五百三十七人、鶴林寺その他があるが、内約一万人が架橋効果と思われる。今後はみかん狩り、あゆ祭り等については近畿圏の観光旅行会社や、ふるさと会を通じて、新しいパンフレットによる売り込み、フライトパークの運輸省(通)マークの申請等でクラブにも働きかける。宣伝に力を入れたい。

運輸省(通)マークとは

正式名称を「優良入力イレジャーエリア認定事業」といい、安心して利用できる要件を満たしていることを審査、認定する国の制度です。



水路が不備な石原住宅の水害

問 天災は忘れたころに、記憶のあるうちにたびたび起これば人災だ。この住宅地は過去にも何回か、今年はずでに床下浸水寸前の被害が二回あった。町消防団の出動もたびたびある。この住宅建設にあたって、こうした水害についての配慮はしなかったのか。また被害の状況、原因はなにか。

答 桂木環境課長 石原住宅は平成三年より入居している。過去にも被害があった。本年も五月十六日、二十八日におきている。現所在地は、町道より高くしているので水害

保険料が支払えなくなった場合 介護保険の適用は

まだどうなるかわからない
(光井福祉課長)



原田昭三 議員

問

二千年から介護保険が実施されることになっているが、「保険あって介護なし」という事態が起こりうるのではないか。高齢になり病気等で保険料が支払えなくなった場合、介護保険の適用はどうなるのか。

答

光井福祉課長 まだ国の制度が決まっていないので、現時点では減免がどうなるかわからないが、町独自でも検討していきたい。

問

一人暮らしの老人はどのくらいいるか。
光井福祉課長 町内には百十六人いる。

答

六十五歳未満の人では、どのような病気であれば介護保険を受けられるのか。
光井福祉課長 特定疾患の十五種類の病気の場合には介護を受けられる。

問

六十五歳以上で、月三万円以下の年金の人はどのくらいいるか。

答

岡本住民課長 国民年金の人だけしかわからないが、三百五十四人である。

問

六十五歳未満の人では、どのような病気であれば介護保険を受けられるのか。

答

光井福祉課長 特定疾患の十五種類の病気の場合には介護を受けられる。



介護保険で特別養護老人ホームにも大きな影響が...

◆十五種類の特定疾病

- ・ 初期の痴呆(アルツハイマー病、脳血管性痴呆、ピック病、クロイツフェルト・ヤコブ病)
- ・ 脳血管疾患(脳出血、脳梗塞)
- ・ 筋萎縮性側索硬化症
- ・ パーキンソン病
- ・ 脊髄小脳変性症
- ・ シヤイ・ドレーガー症候群
- ・ 糖尿病性腎症、糖尿病性網膜症、糖尿病性神経障害
- ・ 閉塞性動脈硬化症
- ・ 慢性閉塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支炎、気管支喘息)
- ・ 両側の膝関節また股関節に著しい変形を伴う変形性関節症
- ・ 慢性関節リウマチ
- ・ 後縦靭帯硬化症
- ・ 脊柱管狭窄症
- ・ 骨粗鬆症による骨折
- ・ 早老症(ウエルナー症候群)

来年度の重点施策は

農業振興を第一に

(川口町長)

問

最近、農業に従事する人の高齢化が進んでいる。

病気等で数カ月の間、仕事を休まなければならないような場合には、農作物を放棄しなければならぬこともある。現在あるファームサービスを拡大して、このような農家を援助する方法を考えてはどうか。

答

戸川産業振興課長 現在、水田だけで約六七ha行っているが、畑作まで行うとなると今の人数ではできない。実態調査をしてから方法を考えたい。

問

来年四月には、農協合併が行われるというように聞いている。これによって、営農指導が弱体化するのではないかと心配があるが、どうか。

答

戸川産業振興課長 農家への営農指導の低下にならないように、農協に対して申し入れをしている。

問

来年度の重点施策を何にするか方針は決まっているか。農業の振興を第一にすべきでないか。

答

川口町長 農業の振興を第一にしていきたい。

横小の受け入れ体制は万全か

十二月議会に予算提案したい
(松浦教育長)

西浜勝己議員



問 坂本小学校の横瀬小学校への統合まで、あと五カ月しかない。横瀬小学校側の受け入れ体制は整っているのか。教室を含め、幼稚園と保育所との関係、さらにPTA等との協議は、どの程度まで話を煮詰めているのか。

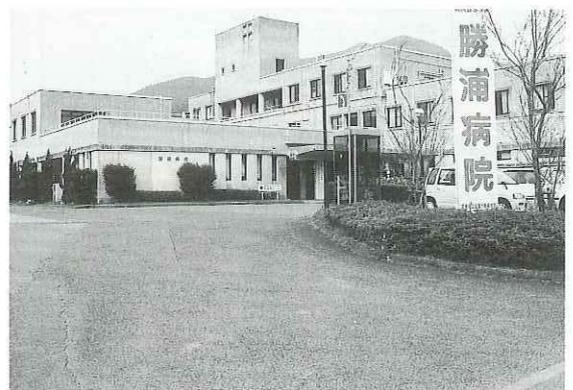
答 松浦教育長 両校先生方や父兄会等と話し合いをしてきて大体の了解は得ているが、幼稚園問題についてはまだ方針が決定していないので早急に結論を出したい。



横小の受け入れももうすぐ(横瀬小学校)

問 幼稚園問題の方針がまだ決定していないようでは困る。幼保一元化による全体統合か。部分統合なのか。文部省と厚生省という二つの所管に分かれている制度との問題もあるが、十二月議会には予算も含めた全体計画の提案がなければならぬ。見解を求める。

答 松浦教育長 十二月議会に具体的提案を致したい。



厳しい経営の中頑張る勝浦病院

再度伺うー病院経営

将来にむけて慎重に話し合いたい
(河野参事兼病院事務局長)

問 町立病院の経営方針について三月議会でも伺ったが、病院運営委員会での協議内容を明らかにされたい。

答 河野参事兼病院事務局長 厳しい現在の運営の中で、これから介護保険法の制定や、療養型病床群の内容による影響で、どのような方向づけをするのか、また、収益増にむけての給食業務、清掃業務の民間委託への移行の問題、さらに、職員の身分

の問題についても話をしなければならぬ。

問 世の中どのように変化しても、公立病院として存在する以上は、変えてはならない基本がある。職員の身分問題等は慎重に話し合わなければならぬ。早急に結論を出すべきでないと思う。見解は。

答 河野参事兼病院事務局長 議会の同意、さらに職員組合等とも協議を行わなければならぬ。充分話し合いの場を持ち方向づけをしていきたい。

婦人の家と改善センターの施設 備品の充実を

充実したい
(戸川産業振興課長)

住民の利用状況の推移と、それぞれの施設の設備の充実について伺いたい。

答 戸川産業振興課長 両施設とも開設以来利用者は増加している。設備の充実にもむけて最大限努力したい。運営委員会等とも協議している。

問 婦人の家でのもちつき器は好評だが、雨の日干し場に困る、簡単にセット出来るテントが必要だ。改善センターには健康増進のため、あんま器等の設置をせよ。

答 戸川産業振興課長 テントは設置にむけて考えていた。改善センターにはビデオともち切り器、あんま器等の購入を予定している。

問 農村婦人の家、及び農村環境改善センターは、地域住民の生活の向上や、健康増進、さらに、住民のよりよきコミュニケーションをはかる目的で施設が完成し、住民に親しまれている。



雨の日に備えてテントを(農村婦人の家)

おじやまします

鹿背山の夕焼けを撮りたい

勝浦町文化協会写真部 敏謙謙次さん

— 活動内容は。

○写真部は町の文化協会ができて以来の歴史を持っている。部員は八人、個人個人で県の写真展などに出席したりしている。

写真は、ピントや露出、シャッタースピードの調整、現像、焼き付けまで自分でするとところに面白みがある。鹿背山のすばらしい夕焼けを撮りたい。カメラに興味を持っている人もたくさんいると

思うので、プロの指導者に来てもらって集まりを持つなど活動を広げていきたい。

— 議会だよりの感想は。○毎号読ませてもらっている。他町の友人にも送ってあげたことがある。

議会の傍聴に行けない人も議会に対する関心が高まったのではないだろうか。

— 議会や町政への意見は。

○新しいものもいいが、伝統文化など昔から伝わっているものの良さを忘れてはいけない。農村舞台など貴重な文化財は保存すべきだ。

また、幼児教育の充実のためには幼稚園が必要だと思っており、町としてどうするか関心を持っている。



写真クラブの皆さん

議会のうごき

8 月

- 3日 横瀬橋開通式
- 4日 勝浦病院運営委員会
- 5～6日 議会広報調査特別委員会
- 6日 厚生常任委員会
- 7日 小松島市外3町村衛生組合議会
- 10日 勝名地区町村議会議長会臨時総会
- 17日 議会広報調査特別委員会
- 19～21日 厚生常任委員会先進地視察
- 26日 第11回徳島県町村議会議員研修会
- 26～28日 産業建設常任委員会先進地視察
- 27日 総務常任委員会
- 31日 厚生常任委員会

9 月

- 1日 総務常任委員会
- 2日 議会運営委員会
- 3日 産業建設常任委員会
- 10日 9月定例議会開会、全員協議会
- 15日 敬老町民のつどい
- 16～18日 9月定例議会、一般質問
全員協議会
- 21～22日 9月定例議会再会、議案審議
全員協議会、閉会
- 29日 議会広報調査特別委員会

10 月

- 5日 産業建設常任委員会
- 8日 新過疎法制定陳情
- 9日 総務常任委員会決算審査
- 13日 議会広報調査特別委員会
- 14日 四国地区町村議会議長会研修会
- 15日 議会広報調査特別委員会
- 19日 議会広報調査特別委員会
- 20日 東部広域農道整備促進特別委員会
- 21～23日 総務常任委員会決算審査
- 29日 厚生常任委員会
勝浦川整備促進特別委員会
議会広報調査特別委員会

編集後記

「議会だよりかつうら」をスタートさせて一年の歳月が、あつと言う間に過ぎ去りました。町民の皆様によりわかりやすく、議会の中身をお伝えし、少しでも多くの方に親しんでいただける広報紙作りに委員一同、一生懸命取り組んで参りました。やつと最近編集作業が少しはスムーズにいきました。あります。他町村から手作りの議会広報紙視察に来町されたのにはちよつとビックリ致しました。

これもひとえに町民皆様の励ましのお言葉、あるいはご叱責の賜物であろうと思えます。これからもご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

- 議会広報編集委員会
- 委員長 西浜勝己
 - 副委員長 神原忍
 - 委員 国清 栄
 - 溝田 義昭
 - 井出 幸夫

